和田町探索ウォーキング

和田地区社会福祉協議会

享保４年（1719）の家数・人口等　　家数８８　本百姓７７　水呑１１　人数５２４
（男２３６・女２８８）　馬12疋　百姓林１１ヶ所

Ⅰ　往古の郡名は長田郡

和田町（旧浜名郡和田村永田）では，白鳳の寺院跡と思われる礎石が発見され，古瓦が多数出土している。この地帯が早く開け，盛んな地域であったことを思わせる。それにしても，天竜川の氾濫や河道の変遷によって，廃絶した寺院や神社は決して皆無ではなかったであろう。

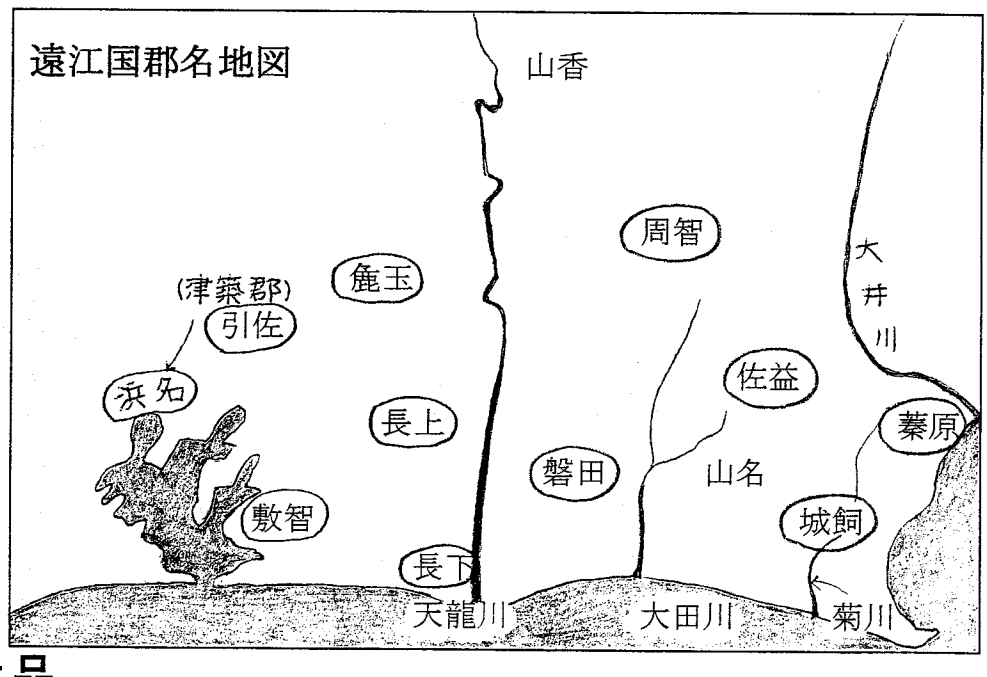
遠江国に置かれていた郡は，元来の浜名・敷地（ふち）・引佐・麁玉（あらたま）・長田・磐田・周智（すち）・佐益（さや）・城飼（きこう）・蓁原（はいばら）の十郡であったとして間違いないと思われる。郡界は地方によってはそれ程の変化はないが，遠江国の場合は，天竜川の河流変遷や氾濫などの事情もあって，相当に変動があったようである。

長田郡は和銅２年(709)２月，地域広大で民家も分散し連絡に不便であったとの理由で二つに分けられ，長上郡（ながのかみ郡）・長下郡（ながのしも郡）の２郡になった。この土地はさして広大でもなく，また民家に乏しい地であったとも思われないから，おそらく理由は国司が分置を申請した時の作文で，実際には民戸繁栄などの理由から分置を有利としたためであろうというのが「静岡県史」の推測である。【浜松市史一　２５３頁】

・和銅２年(709)長田郡ヲ長上郡・長下郡トス

・養老６年(722)佐益郡ヲ割イテ山名郡ヲオク

・弦慶５年(881)磐田郡ヲ割イテ山香郡ヲオク



Ⅱ古代遺跡の出土品

１　木船出土の銅鐸と鐙瓦（あぶみかわら）

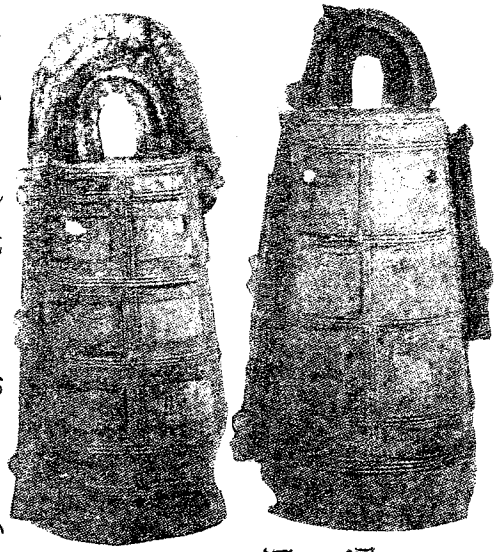
① 銅　鐸

明治 41 年(1908)3 月 6 日，天竜川駅の西方，木船神社（後述）の祠の西側の畑を切り崩していた時に，二口の銅鐸が発見された。第１号鐸・第２号鐸とも，鐸身の高さ 46 ㎝であり，両者は文様の細部までよく似ている。これらの銅鐸の形式は「三遠式銅鐸」と呼ばれている。弥生時代の終わりに近いころ銅鐸文化圏に仲間入りした。現在，東京国立博物館の所蔵品である。　　【浜松市史一 179 頁】

② 鐙瓦（あぶみがわら）

和田町木船には，古瓦と礎石が出土しており，白鳳期に相当する寺院があったらしいことは，よく知られている。昭和29年，区画整理事業が行われ，道路工事に伴い多量の古瓦が発見されて，鈴木一郎氏により採集された。古瓦の出土は銅鐸発見地の近くである。鈴木一郎氏が採集した鐙瓦は4個あり，2個は和田小学校にあり，あとの2個は浜松市博物館にある。

和田町木船の薬師堂のあたりからも古瓦が出土しており，破片のほんの一部が堂内に保管されている。

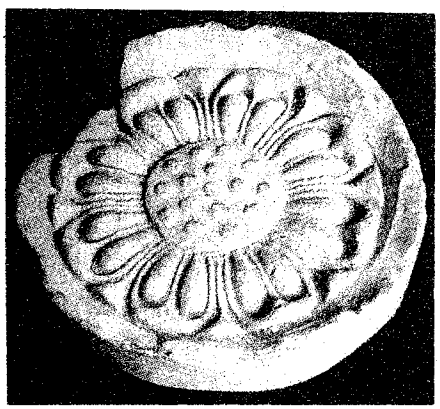


銅鐸

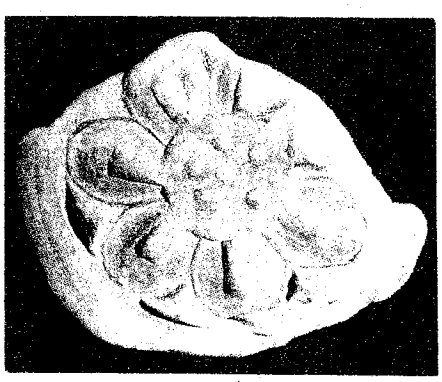
③ 礎石

礎石は薬師堂手前右寄りにあるが，他から運ばれているので，古瓦と結びつけて廃寺跡とする前に，この辺が旧遠江国長田郡にあたることから，長田郡に関係した官衙的遺構の存在を一応考えてみる必要もある。この遺跡の調査については県・市の共催で，昭和52年1月より本格的な調査が実施されたが，寺院跡なのかあるいは，長田郡家跡等の遺跡であったのか確認していない。世間一般には木船廃寺跡として知られている。

「東海展望 ― 浜松地方における寺院の歴史②」に「浜松地方において最も古い寺，それは木船廃寺だが，この寺院に関しては鐙瓦や礎石が発見されているにとどまっており，詳しいことは判らない。しかし浜松地方寺院史のあけぼのである点は，ゆがめることのできない史実である。」と記し，最古の寺院は和田町にある白鳳時代の木船廃寺としている。



鐙瓦（和田小）

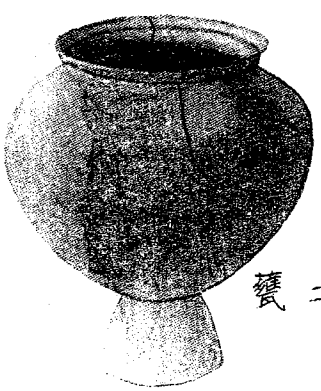


鐙瓦（博物館）

坏 須恵器

2 越前（こしまえ）遺跡出土の土師器　須恵器など

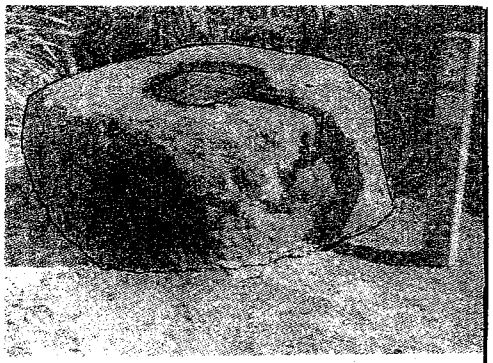
鈴木一郎氏が，畑地を水田に改善しようとした際に，土師器と陶馬を発見した。このことが注目され出土したところの地名をとって「越前遺跡」と命名された。その後県道五島天竜川線青屋踏切除去工事に係り，越前遺跡を南北に縦断する既設道路の改修計画が出された。工事着工前の昭和56年5月，調査を実施した。ここでは，出土した土器のうち甕（かめ） 土師器と坏（つき） 須恵器をとりあげた。



甕 土師器

木船・越前遺跡出土品位置図

木船[1鐸A 礎石　2古瓦　3古瓦（薬師堂）]　越前 4形土器



薬師堂手前右寄にある礎石

Ⅲ　木船神社

○　「上手（うわて）に神明社，木船に貴船神社を勧請してあったが，明治７年本社に合祀した」と神官【大橋文書】は記している。

○　明治初年，遠江国を管轄していた浜松県は神社の合併を強力に推進した。
明治６年４月　第３１号布達をもって，以後村社へ合祀することを管下へ達している。木船に祀られていた木船神社は，上手（うわて）にある八柱神社に合祀されることになった。

○　享保４年(1719)「国領組諸色覚帳」に，「一木船大明神　社中御除一反歩神主甚左衛門」とある。神社合祀の結果一反歩あった境内は村民１６名に払い下げられた。

○　浜松県の神社合祀は，神社の由緒や民情を無視し，教部省にも伺いを立てない越権行為と指摘され，明治７年５月 29 日，教部省から第 31 号布達の取消が達せられた。木船神社は旧境内の東の空地に造営された。木船神社と言われているが，正面額は貴船神社になっている。

Ⅳ　薬師堂

地元の人の話によると，不幸が続いたので，往昔の木船集落の寺院であった長興庵の墓地跡に念仏供養をするため，大正 12 年ささやかなお堂を建てたという。これが薬師堂である。今あるのは昭和 31 年の再建である。

享保４年(1719)の「国領組諸色覚帳」の永田の項に，禅宗新橋村大通院末寺長江軒とある。大通院は臨済宗方広寺派で長伝寺の本寺でもある。この長江軒は現在存在しない。長興庵と関係があったのかもしれない。

Ⅴ　長伝寺

○　「遠江国風土記伝」に，「長田寺，今の長伝寺なり」とあり，古くは長田寺と称した。

○　応永８年（1401）10 月 20 日，普伝高照禅師が開いたと寺の縁起は伝えている。山号は瑞金山，本尊は聖観世音菩薩，臨済宗方向寺派　新橋大通院末

○　享保４年(1719)の「国領組諸色覚帳」に
「一禅宗　新橋大通院末寺　長伝寺　寺中御除　弐反四畝歩
伊奈備前守様　御黒印高五斗目」とある。

薬師堂

寺伝によれば，開山の普伝高照禅師は，疾病の苦痛から信徒を救わんと，薬師如来を祀る薬師堂を建立したとのことである。昭和 60 年改築した。

刑里村尾多聞の墓（けいりむらおたもん）

村尾多聞は浜松で医者をしていた村尾薫覚の子として生まれ，父親の業をついで医者となり，永田村（和田町）に居住し，人となり人情に厚く村人に慕われ，特に産科で評判が高かったが，わずか４０歳という若さで嘉永６年(1853)７月２７日他界している。墓碑銘は門人の三好弘達と久野玄淳の二人の撰文である。浜松の医家村尾家は兄元融の存在が大きく，それだけにその陰にかくれて，名を知る人も少ない。　薄幸の生涯を終えた多門であるが，村人のために尽くした異色ある医師である。

Ⅵ　八柱神社

○　享保４年(1719)国領組諸色覚帳】に

六所神社

一八王子　三社社中御除八畝程　神主甚左衛門

若宮八幡

高八斗六升五合御城主御代々御除

と記されている。

○棟札が二枚ある

①正保３年（1646）　六所神社造営

②享保 21 年(1736)　八王子社造営（先の造営から歳月を経て神殿すでに破壊に及んだので造営した）

明治天皇御野立所址　　昭和 11 年 11 月 3 日明治節の日に，永田橋東，和国街道との交差点南側角に，「明治天皇御野立所址」の記念碑が建てられた。明治元年 10 月 3 日，明治天皇御東幸の折（明治天皇御年 15 歳），御野立されたところである。この碑は道路拡福のため八柱神社境内に移された。中野町六所神社北側の天竜川堤防沿いに「明治大帝御聖蹟」がある。これも明治元年 10 月 3 日，明治天皇御東幸記念に建てられた碑である。ほぼ同じ場所に「船橋紀功碑」がある。明治天皇行幸のために架けられた船橋址である。

Ⅶ　永田の屋台

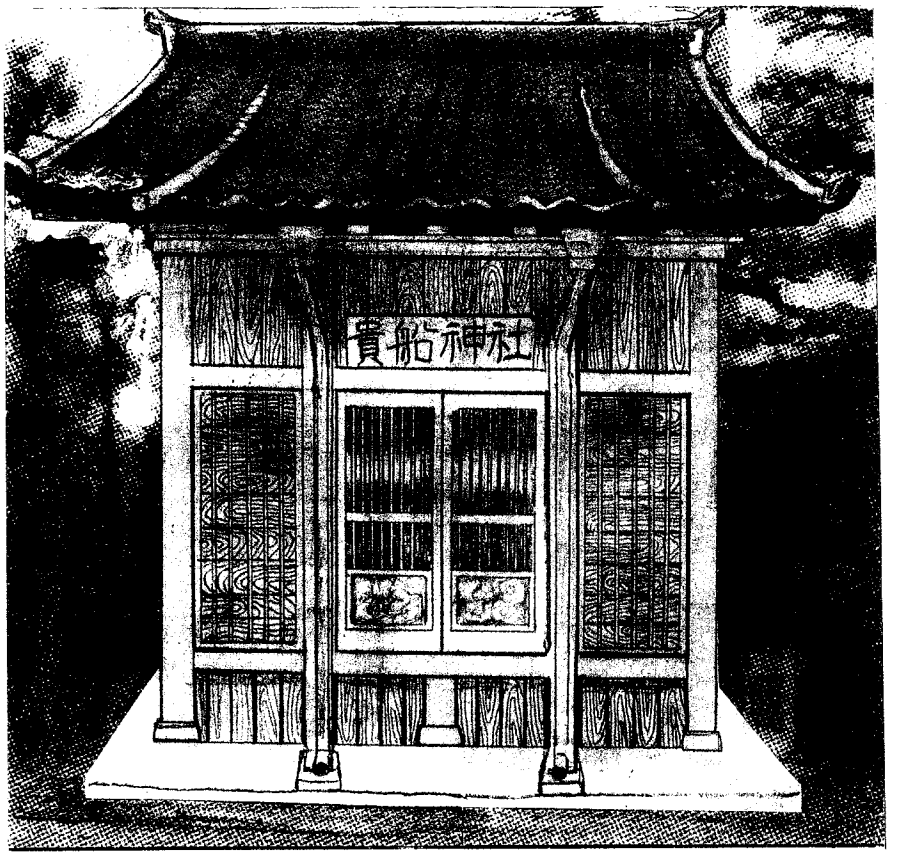
永田村は明治から昭和の戦後まで，ごしんさま（蒲神明宮）の祭に屋台を曳いて行った。永田の屋台は掛塚から買ったという。彫刻入り・本塗りの伝承ある本格的な屋台である。大工５人と彫刻師の名前，明治 11 年の文字が墨書されている。蒲地区では，「明治 12 年　宮竹村で屋台新造」の記録が最も古い。それより前に，大八車に柱を立てただけの粗末なものはあったかも知れない。

これらのことから，ごしんさまの祭典に本格的な屋台が登場したのは明治 11 年からである。明治 13 年の御遷宮に合わせ，各村が造り始めたと思われる。「蒲のふるさと」には，明治 13 年の御遷宮には屋台曳き入れの記録はない。次の明治 33 年の御遷宮には，永田　子安　宮竹　将監名　神立　植松の順で屋台が入ったと書かれている。

大正９年の御遷宮には，永田を含め 11 村の屋台が入っている。 入る時は，永田　宮竹　大蒲・・・の順，出る時はその逆の順。　　【蒲のふるさと・袖紫ヶ森】

大正９年の屋台曳き入れ⇒

村　名	屋　台	山 車	衣 装
永田	屋　台	おその大助	ハッピ着揃え
宮竹	屋　台	安達ヶ原	長着揃え
大蒲	屋　台		前　　同
大蒲下	屋　台	大黒天	蔵の中の女姿
植松	屋　台	野狐三次	ジバンにサルマタ揃え
上新屋	屋　台	狐忠信	
将監名	屋　台	関の戸	
丸塚	屋　台	虎に清正	
上西	屋　台	羽衣天女と漁夫	
西塚	屋　台	天笠徳平	
神立	屋　台	楠　公	モンペ袴揃え



貴船神社

薬師堂

礎石

村名の歴史と町名の由来

○大化 2 年(642)　遠江国が制定され国府（磐田）が置かれる。
○同和 2 年(709)　遠江国長田郡を分け，長上郡と　長下郡の二郡にする。
○明治 22 年(1889)　町村制の施行により遠江国長上郡橋田村永田とする。
○明治 24 年(1891)　町村制の改正により遠江国長上郡和田村永田とする。
○明治 29 年(1896)　郡名変更により浜名郡和田村永田とする。
○昭和 29 年(1954)　浜松市に併合
○昭和 30 年(1955)　和田村の和田の字句の消滅を惜しみ町名として残した。